

こわだ防災

Vol 1 2017年1月

香川自治会〈安否確認訓練〉見学

報告世帯 97,4% タオル確認 61,4%

小和田地区自治会連合会

赤松 自治会	〈 130 世帯〉
赤松町自治会	〈 540 世帯〉
新宿 自治会	〈 990 世帯〉
本宿 自治会	〈1,560 世帯〉
菱沼小和田自治会	〈1,200 世帯〉
プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会	〈 100 世帯〉
連合会長 新倉昭人 加入数	〈4,520 世帯〉

小和田地区自治会連合会の平成 29 年度 防災課題は「安否確認訓練」です。

訓練に取り組む前に、まずは他自治会から学ぼうということで平成 29 年 1 月 22 日（日）に実施された香川自治会の「安否確認訓練」を 8 人で見学しました。（感想は別紙に）香川自治会は湘北自治会連合会に所属。 香川の人口〈11,732 人〉 H27・9 現在 自治会加入世帯数 〈3,347 戸〉 H29・1 現在

安否確認 本部最終報告表

町内別	世帯数	報告世帯	タオル		
			タ有	タ無	不在
第 1 町内	595	595	360	134	101
第 2 町内	1,130	1,106	748	211	44
第 3 町内	839	814	561	234	37
第 4 町内	783	745	385	234	100
合 計	3,347	3,260	2,054	813	282

(97,4%)

〈61,4%〉

不明：198



災害対策本部
香川自治会館



対策本部の室内は、停電で電気は使えない設定のため、エアコンや照明はなし。トランシーバーで 4 町内会と交信します。



第一町内会 595 世帯



第二町内会 1,130 世

香川自治会安否確認方法は

玄関・門・ベランダなど、表から見える場所にタオルを（色は問わない）掛け、全員無事であることを知らせる方法

安否確認の流れ

9:00 大規模地震発生、
災害本部より第 1～第 4 拠点へ設置状態確認
直ちに安否確認開始⇒組長 2 人 1 組で回る
9:30 第 1 回目各拠点確認戸数報告⇒本部
10:00 第 2 回目各拠点確認戸数報告⇒本部
10:30 第 3 回目各拠点確認戸数報告⇒本部
11:00 最終報告 ⇒本部集計
*負傷者・トラブル等の報告を受ける



第三町内会 839 世帯



第四町内会 783 世帯

各拠点での作業

受付班…組長から安否を確認した名簿を受付。
集計班…掲示地図上に組別の報告状態の印付け。
展示班…展示された災害用機材の説明。

・・安否確認訓練を見学して・・会長 新倉 昭人（自治会連合会、本宿自治会）

反省会も参加させていただいた。

時間ごとに本部に報告する各地区の最終集計者は大変だったこと、無線機の扱い方を習熟する必要があること、アンケートはもう少し簡単にした方が良い、等の意見があった。

第 3 町内会は福祉施設も全館確認。第 4 町内会は簡易トイレも使ってみたという報告がありました。ともあれ 97%という驚異的な報告が集約されどの路地も名簿片手に組長さんがチェックされている姿に感服しました。

西山 一夫 (赤松町自治会・会長)

門柱・玄関ノブ・ベランダの欄干そして郵便ポストにまで色とりどりのタオル,タオル,タオル,安否確認の基本行動。どの家庭にでもあり、また一寸したスペースでも取り付けやすい。自助行動（自分を助ける行動）第一段階でタオルがあれば周りの人は掛かってない家庭を訪問でき効率よい共助（他人を援助・手助け）に移れる。

全地区で行動されたことは連帯感が強まったと思います。私一人では何も出来ないから地域の人たちと、何かお手伝い出来ることの第1歩を踏み出された自治会の皆さまに拍手。

これを契機に非常食の備蓄、家具の転倒防止対策等、参加したことで前向きになられるのではと感じました。

市野 裕行 (菱沼小和田自治会・会長)

防災訓練における防災目的（安否確認）を的確に認識し、そのために必要な組織作りから機材準備、訓練シナリオの作成 等を十分時間をかけて練られているとの印象を受けました。

また訓練成果を定量的に評価できる指標を明確に設定することで、訓練参加への動機づけ（対抗意識！）を行い、継続実施に繋げるという戦略意図も感じました。

鈴木 信之 (プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会・会長)

香川自治会の安否確認訓練は、今回が初めての取り組みと聞きました。

3,400 世帯と大きい自治会ではありますが、町内会、組が連携した計画はしっかりと練られており、参加される方も意欲的に取り組まれていました。訓練見学中にも、現場で課題が発見されており、やはり実際に訓練を実施することが大切です。プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会でも、安否確認の避難訓練を実施していますが、世帯数や住民の内容は異なります。

それぞれの地域が、その地域に合った「近助、共助」の形を構築していくことが必要と感じました。

唐沢 秀彰 (防災リーダー・本宿自治会)

二人一組の体制はキッチンと徹底されていた。各集合場所の展示（車椅子・防災器具・発電機・トイレ等）や接待（甘酒・アメ等）が良かったが役員の負担は大変なものではなかったのか。

安否確認に絞った方がやりやすいと思った。

新倉 真二 (防災リーダー・本宿自治会) 防災研修会 (3月4日) 写真にて説明

眞壁 章 (小和田地区民生委員児童委員協議会 会長・本宿自治会)

今回の狙いは「近助・共助」を実践出来る地域組織作りということでした。

本部集計もスムーズに行われ、その結果がとても高い把握率でびっくりしました。

各拠点には防災グッズ（発電機・浄水器・トイレ等）が展示されているのも良かった。

各公園では甘酒等も準備され炊き出しの訓練にもなっているようでした。

（感じた反省点）①時期は春先（新年度）が良い。組長さんが訓練体験を約一年間生かすことができる。

②連絡用無線が混線していた（機種の見直し）③町内の中心地に拠点を置く（広域では集計に時間がかかった）

④「安否確認」に特化した訓練なので、自治会内だけで企画運営出来ていたことは良かったが、全体訓練・避難訓練との絡みで位置付けをどのように考えるかな？と感じました。

小笠原多恵子 (自治会連合会・会計事務 ・新宿自治会)

第1回目の安否確認。その成果が97.4%という高数値、訓練は大成功に終わってホッとされたと思う。

事前の準備など役員各位のご尽力が察せられます。今後も本部と各拠点との連絡方法（トランシーバーの使い方）などに改善を重ね、ますますしっかりとした体制が整えられてゆくことと思います。

一つ訊いておきたかったこと・・・なぜこの厳寒の時期に行うことになったのか？多分『災害はいつ来るか判らない』・・・この不測の条件を考えて（最悪の状態の時にでも対応できるように）とも思うが、もし天候が雪や氷雨だったら準備から片付けまで4~5時間、屋外の拠点で活動する関係者や、地図を片手に安否を確認する、組長さん達も大変だったと思う。…当日が暖かな晴天で、他人事ながら本当に良かったという感想です。